

2021年10月15日
日本生命保険相互会社

ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンスへの加盟について
～2050年の資産運用ポートフォリオにおける
温室効果ガス排出量ネットゼロに向けた取り組みの強化～

日本生命保険相互会社（社長：清水博、以下「当社」）は、今般、資産運用における気候変動対応取り組みを一層推進していく観点から、気候変動に関する国際的なイニシアティブである「ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンス（以下「NZAOA」）」に加盟いたしました。

当社は、ESG 投融資において世界で最も重要視されているイニシアティブの一つである国連責任投資原則（Principles for Responsible Investment、以下「PRI」）に署名し、当社職員が保険会社として世界で初めて同団体の理事に就任する^{※1} など、各種イニシアティブへの参加を含めて、ESG 投融資の取り組みを多面的に進めてまいりました。

例えば、環境・社会に関するさまざまな課題において、特に影響が大きい気候変動については、資産運用上の重要な ESG リスクと捉え、資金提供や対話を通じて投融資先企業の脱炭素化に向けた取り組みを後押ししております。こうした中、脱炭素社会および持続可能な社会の実現に向け、2050年に温室効果ガス（以下「GHG」）排出量のネットゼロを目指す日本政府の方針に賛同するとともに、資産運用ポートフォリオにおける GHG 排出量^{※2} について、2050年にネットゼロとすることを目指しています。

NZAOA への加盟を通じ、国内外の投資家とも協働し、国際社会で議論されている気候変動に関する科学的分析や計測手法等について最新の情報を獲得しながら、資産運用ポートフォリオにおける GHG 排出量の 2050 年ネットゼロに向けた取り組みを進めてまいります。

今後、日本政府が 2030 年の GHG 排出量削減目標を引き上げたことなども踏まえ、資産運用ポートフォリオの GHG 排出量削減に関して、2030 年の中間目標を設定いたします。さらに、ネットゼロの目標設定の対象とする資産を現在の国内上場株式と国内社債にとどまらず、国内外の上場株式や社債等に拡大いたします。

今後も、持続可能な社会の実現と運用収益向上の両立を目指し、ESG 投融資を推進してまいります。

※1：2021年7月19日に当社職員の木村武（海外事業企画部兼総合企画部兼財務企画部審議役）が国連責任投資原則の理事に就任しております。<https://www.nissay.co.jp/news/2021/pdf/20210719.pdf>

※2：投資先企業の Scope1、2 を対象とします。主な温室効果ガスには、二酸化炭素（CO2）やメタン（CH4）、一酸化二窒素（N2O）、フロンガスがありますが、温室効果ガス排出量は、CO2 換算として算出されるのが一般的であり、当社の目標も、CO2 換算した GHG 排出量を対象とします。

<ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンスの概要>

- ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンス (The Net-Zero Asset Owner Alliance) は、パリ協定の気温上昇を 1.5°C未満に抑えるという目標達成のために、2050年までの資産運用ポートフォリオのGHG排出量のネットゼロ(実質ゼロ)にコミットし、実現に向けた取り組みを行っていくアセットオーナーのアライアンス
- 2021年9月時点で、保険会社や年金基金等49の機関が加盟しており、加盟機関の運用資産総額は7兆米ドル(約783兆円)を超える

以 上